



美杉中学校だより

みんなが幸せになれる学校
すすんで学び行動しよう
ぎぶあっぷしな

第 25 号
令和 5年 2月 15日発行
美杉中学校長
坂本 直哉

ピンクアクションウィーク

美杉中学校だより第 23 号でお知らせしましたが、2月6日（月）～2月10日（金）の1週間、生徒会の呼びかけで「ピンクアクションウィーク」に取り組みました。

生徒・先生がピンク色のものを身に着けたり、携えたりと、それぞれにこの運動への賛同の意志をあらわしている姿がみられました。

たとえ、一人一人の行動が小さなものでも、それが多くの人にひろがっていけば、大きなうねり・力のきっかけとなることを学んでくれたのではないのでしょうか。



= 出会い学習 =

2月10日（金）。3年生出会い学習を、今年も「ヒューリアみえ」（反差別人権研究所みえ）から原田さんを招いて行いました。今年は、生徒が書いた『私宣言』を事前に読んでいただき、当日を迎えました。

生徒からは、「自分がイヤなことを言われても、それを周りに伝えられない」、「つき合いが長いからこそ、伝えられないこともある」などの思いが語られました。その後、原田さんから、1年前と今現在のみなさんの変わった姿（自分を振り返って話ができている）という感想の後、「逃げるということ、みなさんはどう思っていますか？」と問われました。原田さんは、「僕は逃げてもいいと思う。けど、自分と向き合うことから逃げたらあかん。」と話され、ご自身が自分と向き合わずに逃げていたこと、仲間（先輩）との出会いにより、『自分の思いを語り合うこと』、『仲間のことを自分のことのように考えること』、『あかんことはあかんと言える』、『背伸びしなくていい、ありのままの自分でいい』など、自分を受け止められるようになったとお話しされました。「まず、一歩目は自分から踏み出さなければ、何も変わらない」という言葉がとても印象に残った授業でした。



教育集会所学習会より

「子どもたちが差別に負けないように学習してほしい」という願いで20年以上続いています。卒業を間近に控える3年生を送る会がありました。ゲームを楽しんだ後、この学習会で学んできた思いを、6名の3年生がそれぞれに発表してくれました。「これからも人権について考えていきたい」、「差別について考えることができた」、「差別を見逃さず、許さない」など、人権感覚の確かな成長と、強い思いが伝わってくる時間でした。